

記録
フィルム
カラー／20分

- 自主企画
- 協力
(財)日本視聴覚教育協会
- 指導
遠藤友麗 (文部省初等中等教育局教科調査官)
新川昭一 (金沢大学教授)
原田利一郎 (前新宿区立西戸山中学校教諭)
水野谷憲郎 (東京学芸大学附属小金井中学校教諭)

スタッフ

- 製作
村山和雄
- 脚本・演出
花崎 哲
- 撮影
木村光男
- 撮影助手
服部 浩
- 照明
水村富雄
佐久間 勇
- 音楽
角田 敦
- ネガ編集
加納宗子
- 録音
アオイスタジオ
- 現像
ソニーPCL
- 解説
小野田英一
- 出演協力
平山郁夫 (日本画家・東京藝術大学学長)

文部省特選 1992年教育映画祭優秀作品賞

絵を描いたり表現したりするうえで最も大切なことは、自分が何に感動し、それをどう表現するかだ。中学生の時期は、多感だが、それを表す表現技能とのギャップに悩むことが多い。そうした悩みの中にある中学生を励まし、感性を深め、磨くことの大切さを訴える。



なかなか思うように絵が描けなくて悩む中学生は多い。ほんとうに、そっくりに描けなければだめなのだろうか？

映画は、木を写生する美術の授業を通して、「感じ取る心＝感性」についてわかりやすく教え、自分の感じたことの大切さ、自分らしさに気付かせる。また、日本画家・平山郁夫のアトリエを訪ね、絵を描く心について聞く。